

各務原高校周辺の授業巡検コース

岐阜県立各務原高等学校 加納裕一郎

地域調査にあたって

各務原市は、市域の中心が洪積台地の各務原台地上にある。この台地は、扇状地状三角州が隆起したものである。台地の規模は、東西約10km、南北約4kmである。標高は名鉄羽場駅付近が高く約60mで、東から西へ緩やかに傾斜している。なお、羽場町付近の各務原台地東端には、木曽川泥流が台地面に押し上げるようにのっている。台地の特色として、解析された深い谷が少なくおよそゆるやかに波打った平坦地を形成している。しかし、東部・南部は木曽川が、北部・西部は境川や長良川の浸食によって河岸段丘状になっていて、およそ上位の台地面と下位の台地面に分けられる。

市域の北部は古生代に放射虫や珪藻が海底で堆積し中生代に隆起したチャートなどからなる200～300mの山地がおよそ西北西から東北東に向かって列状に分布している。

各務原市は人口13.7万(2003年度)である。人口は順調に増加してきたが、ここ数年の年増加数は1000人を下回っており、社会増加は年によってはマイナスになっている。核家族化や単身世帯の増加によって世帯数は増加しているが、人口増加は頭打ちになってきている。土地利用をみると、宅地が23.3%、以下、山林14.9%、畑11.7%、田8.9%、雑種地4.6%、その他36.6%である。国道21号線南には航空自衛隊岐阜基地があり、広い面積を占める。

輸送機械工業など製造業が特筆される各務原市であるが、工業従業者数や工業事業所数は減少傾向である。那加の中心商店街は停滞気味で、国道21号線などにロードサイドショップの進出が著しい。鷺沼地区には大型小売店のアビタが進出した。

農業については、総農家戸数が2406戸(農業センサス:2001年)で、台地上では畑作が中心で、境川沿いは水田が多い。「黒ボク」が分布する台地の畑作は、人参の栽培が多く、白菜・里いも・甘藷がおもなものである。人参、白菜の作付面積は横ばいであるが、里いも・甘藷は、減少してきている。

本校は、この各務原市域の中央部蘇原地区の北部に位置し、近くを主要地方道の江南関線が通っている。

巡検地域の概要とねらい

1. 巡検地域の概要

この巡検は、本校より約1.5km南進して東島池で引き返すコースである。巡検地域のポイントを本校より順を追って説明する。

本校は、新境川の流域にあって、その支流の正福寺川との合流地点にほぼ位置している。標高は38.9m(東門道路上)で、水田面はそれより50～80cmほど低い。本校の北部は、関市との境になっている西北西から東南東に連なる標高200～300mほどの山地になっている。南部には採土中の各務山がある。いずれも、チャートからなる山地である。

本校が位置する新境川沿いの低地は、「各務原の歴史」(各務原市教育委員会編)の地形分類図によると、各務原台地の「低い方段丘」(下位の台地面)に分類されている。しかし、土地条件図ではこの地形面を氾濫平野・谷底平野に分類しており、地質図では礫・砂および泥からなる谷底平野堆積物からなっているとされている。土地利用は水田がほとんどで、本校の周辺もそうである。境川流域では、条里制の遺構が見つかっており、早くから開発が進んでいた。

本校より南へ100mほど行くと新境川を横切るが、対岸のおがせ街道沿いの坂井の集落はこの面より1mほど高く、前出の地形分類図によると上位の台地面となる。この付近は、集落や畑が分布しており、土地もゆるやかに起伏をうっている。秋になると、観光芋掘り農園もみられる。土壌は、「黒ボク」である。

この付近から少し南進すると、主要地方道の江南関線と合流し市街地が形成されている。各務山の

改変地に、市文化ホール・市民会館や各務原警察、法務局、中央小中学校、東海中央病院などの公共機関や公共施設が集中しており、文教官庁地区となっている。また、周辺は新興住宅街が広がっている。東海中央病院付近は、各務原市の都市計画図では近隣商業地域になっており、通称16m道路の終点付近にはロードサイドショップなど商店が多い。拡幅の進む都市計画道路も部分的に開通しており、今後も都市化が進むと予想される。

この地点には、農業用のため池の東島池がある。この付近は、周囲の台地面より低くなっている。現在は、灌漑用として使用されるとともに、整備されて公園として利用され市が管理している。東島池から南は、再び各務原台地の上位面（標高約43m）であり、川崎重工岐阜北工場やムトー精工などの工場地区となる。

巡検は、東島池まで南進して引き返す。帰路は、各務原警察署の前を東進して新興住宅地を通り北に折れて台地面に下る。そして、台地面とそれよりやや低い氾濫原が列状に交互に分布する各務西町を通る。やがて、駒場の集落がのる新境川沿いの「黒ボク」台地面を横切る。そして、新境川の堤防を東進し水田地域にでる。

巡検の最後に、本校東500mほどのところにある採土場に立ち寄る。ここは、チャートなどからなる山地を崩して、採土している。また、他から搬入された残土をリサイクルしている。現場の方の話では、この山地の土砂は土木建設用の盛り土などに利用され、質が良く他より高い値段で取り引きされているとのことである。

この巡検コースは、2単位時間では少しきついと思われるので、時間によっては、採土地の聞き取り調査は、別に1単位時間設けて実施しても良いと思う。

2. 巡検のねらい

(1) 新境川沿いの低地と坂井町付近の台地面の地形と土地利用を考察する。

本校のある新境川沿いの低地と坂井町付近の台地面の違いに気付かせたい。土地利用や土壌などの違いを観察する。坂井町付近の台地面では、白菜・大根などの根菜類や一部に芝の栽培もみられる。また、観光農園としての甘藷栽培もみられるので都合がよい。新境川の低地と坂井町の台地面との比高を簡単な方法で測定してみる。この一帯は、わずかな比高の違いで、水田と畑が列状に交錯しているので、注意深くみる。水田の灌漑用水が至るところにみられるが、そうした水路の水源について考えてみるのも興味深い。

(2) 各務山の改変と都市化について考察する。

各務山は、現在も採土されている。改変された土地は官庁や公共施設に利用され、また新興住宅地になっている。各務原市の中央部に位置し、那加に対して飛地的な文教・官庁地区としての機能を持っている地域であることに気付かせたい。また、付近にはどんな商店が多いかなども観察してみる。

拡幅が進んだ都市計画道路が部分開通している地点まで行き、各務原市の都市計画の話も織り混ぜ、町づくりについても考えさせる。

(3) 農業用ため池の東島池を観察する。

各務原台地は乏水性の土地で、ため池が各所にみられた。この付近が、どのように灌漑されてきたかを考察する。ここは、土地条件図によると、各務山南麓の前の山水路（かつて後川）から続く細長い谷底平野である。東島池の下流は、後川となって新境川に注いでいる。

また、こうしたため池を市民の憩いの場として活用する町づくりにも注目させる。

(4) チャートの山地の採土場について考察する。

各務山をはじめ、本校付近の山地は、採土場となっているところが多い。本校東約500mには、A社の採土場があり、いつもトラックが出入りしている。なぜ、この山地を崩して採土が行なわれているのかを考えさせる。簡易事務所があるので、土質の特徴やその土砂の利用先、さらに跡地の計画などについて、地理の調査法のひとつである聞き取り調査を試みる。また、自然との共生を考えてみてもよい。

学 習 指 導 案

単 元	第 部 第 1 章 市町村規模の地域の調査 1 節 身近な地域の調査
本時の目標	身近な地域の調査を通じて、地理的なものの見方や考え方を養う。 実際に現場を歩き、既習の地理的な知識を確認するとともに地理的な新しい発見を体験させる。また、地域調査の方法について学ばせる。

本 時 の 展 開

	学習内容	生徒の学習活動	時間	指導上の留意点	評価の観点
導 入	巡検の方法・所持品・交通指導について説明。	メモをとりながら、説明を聞く。	5 分	資料プリントを事前に配布して作業を行なわせておく。	話しを聞く姿勢はどうか。
展 開	<p>本校周辺の考察 標高の確認、土地利用の観察 解説</p> <p>坂井付近の台地の考察 新境川沿いの低地と坂井町付近の台地面の比較 比高・土地利用（作物の種類）・土壌 都市計画道路の建設 解説</p> <p>東島池の考察 ため池と灌漑 ため池の公園化 解説</p> <p>各務原警察署・東海中央病院付近の考察 各務山の改変地の都市化 市民会館・警察署・法務局・公立学校等の公共機関と東海中央病院</p> <p>各務原市のミニ文教・官庁地区の形成 ロードサイドショップと近隣商店街 解説</p> <p>本校東の採土地の考察と聞き取り調査 解説 A社の採土・残土のリサイクル 良質の建設用</p>	<p>本校の位置と標高がどれだけなのかを、資料プリントで確認する。</p> <p>比高を簡易の方法で測定し、土地利用・土壌について観察する。資料プリントに結果を記入する。</p> <p>土をさわってみる。 この道路の役割を考える。</p> <p>このため池の役割と灌漑される地域を考える。</p> <p>各務山がかつてどの地域まで及んでいたかを開発以前の地図で確認する。改変された土地が何に利用されているかを考察する。</p> <p>どのような商店が立地しているのか商店の業種調査し記録する。</p> <p>「なぜ、この山地で操業しているのか」「操業開始はいつ頃からか」「跡地利用の計画はあるのか」などを質問する。聞き取り結果を記録する。</p>	2 0 分	<p>交通のマナーに常に気を配る。</p> <p>全員が説明を聞ける場所を設定する。</p> <p>測定や観察法のポイントをわかりやすく説明する。</p> <p>都市計画図の説明をしておく。</p> <p>地形とため池の関係を考えさせる。</p> <p>この地域が台地ではなく、かつて各務山であったことを押さえさせるとともに、なぜ公共機関が進出したか発問し考えさせる。</p> <p>調査を通じて、地理の面白さを感じさせる。</p> <p>あらかじめ質問事項をまとめておき、代表者に要領よく質問させる。また、聞き取り調査のマナーを事前に指導しておく。</p>	<p>興味・関心を持って熱心に取り組んでいるか。</p> <p>手際よく観察できているか。</p> <p>観察のポイントを押さえているか。</p> <p>質問に対して的確に答えられているか。</p> <p>調査の記録方法は適切か。</p> <p>ポイントを押さえ聞き取り調査をしているか。</p>
ま と め	巡検調査結果の整理方法を解説する。 次回の予告	資料プリントの調査票の整理の仕方の説明を聞く。	5 分	図化して整理する方法も指導し、宿題を出す。	

写真による巡検経路の解説



(1) 各務原高校周辺(中央上が本校)

これは、本校を東側から撮影したものである。周辺は新境川に沿った水田地帯になっている。この水田面は、土地条件図によると新境川の氾濫平野である。地質図からも、礫・砂および泥からなる完新世の谷底堆積物をのせているおり、沖積平野に分類して良いと思う。

この付近は、古代において条理制がひかれていたことがわかっている。

(2) 新境川より東を望む。(中央が新境川)

巡検経路図 地点。流水方向は、写真手前が下流である。左側の水田地帯が沖積層をのせている新境川の氾濫原である。通常の水量はこの程度で少ない。

遠方の山地は、標高250mほどの北山や愛宕山である。いずれもチャートからなる山地である。



(3) 新境川左岸の台地

巡検経路図 の地点。新境川の左岸は、坂井の集落になる。集落は、各務原台地の上位の台地面に該当し、新境川沿いの水田面より1m~1.5mほど高くなっている。集落は、ほぼ40mの等高線に縁取られている。地形面の境界は、小規模の崖となっているところがあり竹林が生えている。

(4) 坂井町の台地面

巡検経路図 の地点。おがせ街道を横断して100mほど南進したところは、ゆるやかな丘を形成している。標高は40mを若干越える。土地利用は畑になっており、白菜などの野菜が栽培されている。一部に芝生の栽培地もみられる。

礫・砂と軽石からなる台地で、表層の土壌は黒褐色の「黒ボク」で、酸性土の火山灰層である。保水力に富んだ腐植土の特長をもつ。





(5) 都市計画道路

巡検経路図 の地点。

都市計画道路岐阜犬山線で幅員は25mある。この拡幅された新しい道路の開通区間はこの地区だけだが、将来は各務原市街の北部を東西に走り犬山まで延びる幹線道路になる予定である。

ロードサイドショップの進出は、この付近ではまだ顕著ではない。



(6) 台地面と各務山の改変地

巡検経路図 の地点。手前は、観光「芋掘り」農園となる畑である。標高約40mの台地上である。秋には、甘藷が栽培されており、幼稚園児などの子どもたちで賑わう。写真の左上は改変が進む各務山である。

住宅の建っているところは、かつて各務山であったところで改変されて新興住宅地になっている。この改変地の標高の高い地点は中央中学校付近で50mが等高線走っている。この畑地との比高は約10mある。

(7) 市文化ホール付近のショップ
巡検経路図 の地点。

手前の道路は、江南関線であり、交通量が多い。

ターゲットV(バロー)はスーパーマーケットで、その他、自動車販売店がある。付近には、飲食店の立地も多い。ホテルや結婚式場も立地している。

この通りの向かい側が、市の文化ホールになっている。





(8) 東島池と東海中央病院

巡検経路図 の地点。東島池は現役の農業用ため池である。岐阜蘇原線(通称16m道路)と江南関線の合流点に位置している。写真手前がその池で、白い建物は東海中央病院である。

池の中央には噴水があり、池周辺は整備されて親水公園になっている。公園は、市が管理している。池の水の出入口は東側にあり、後川とつながっている。東島池は、周囲の台地面より低いところにある。

この周辺は都市化が著しい。



(9) 各務原警察署と新興住宅街

巡検経路図 の地点。各務山の改変地に位置している。手前がこの地区の中心街路で、この並びに市文化ホール・市民会館もあり、公的機関・施設が集中している。また、新興住宅街が広がっている。各務山の山肌が見えるが、その辺りに中央中学校やJ Aの各務原本店がある。

各務山の採土は、1955年にはすでに始まっており、1970年の修正測量の地形図では、かなり改変されているのがわかる。1973年には、造成が始まったようで、地形図に「建設中」の文字が見える。1976年までには造成地が完成し、何戸かの住宅が建設されている。東海中央病院の新築移転・市民会館の開館は1977年(昭和52年)である。1981年修正測量の地形図によると、警察署など現在の公共施設の建設は終了している。

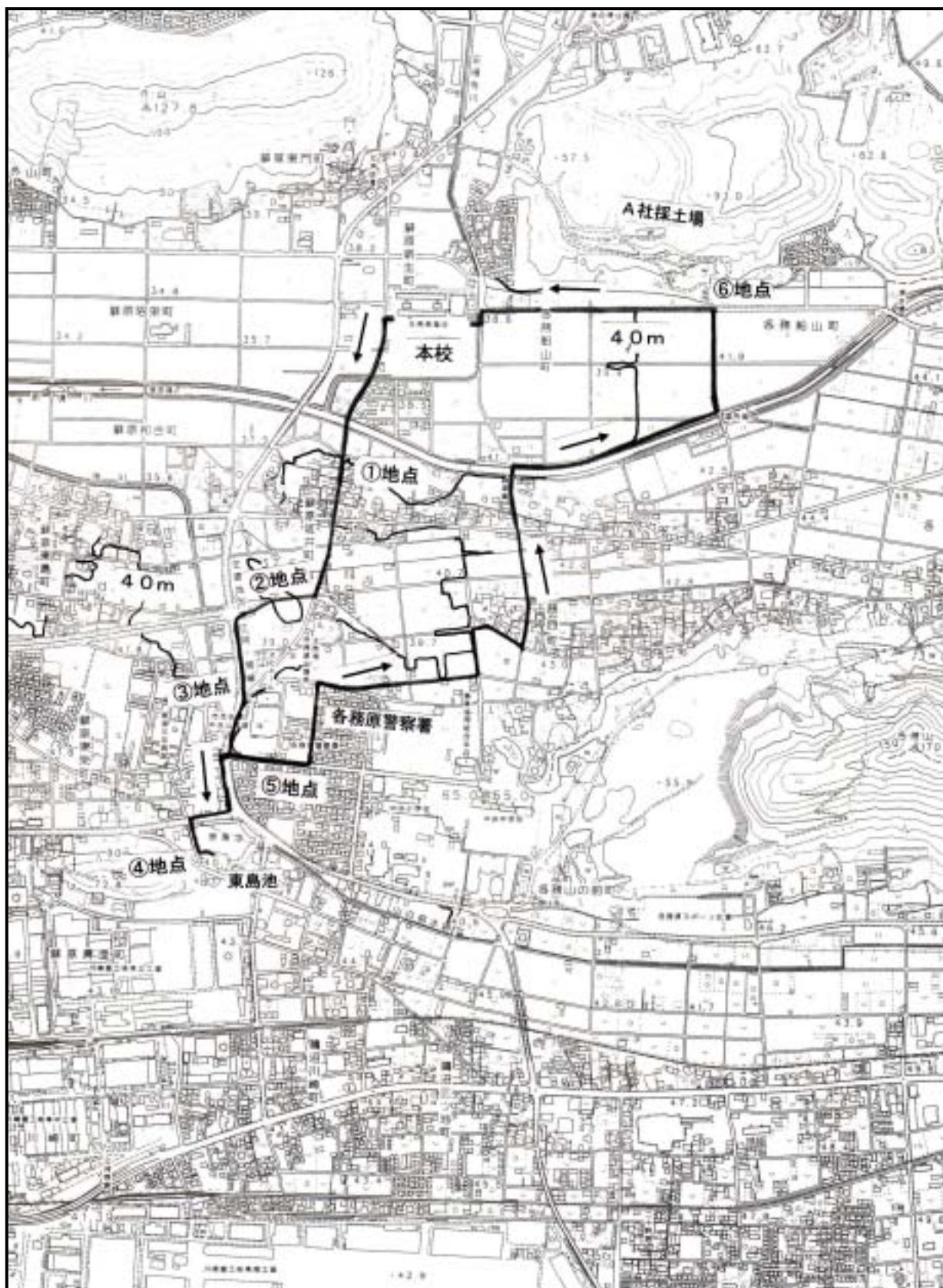


(10) チャート山地の採土場

巡検経路図 の地点。

本校の東500mの採土場で山肌が削られている。A社が操業しており、残土のリサイクルも行なっている。この山地の北側にテクノプラザが建設されており、順次整備されていく。





各務原高校付近巡検経路図

各務原市役所：各務原市全図 1 / 15 000 (原図を141%に拡大)